

9月の物価 2.8%上昇

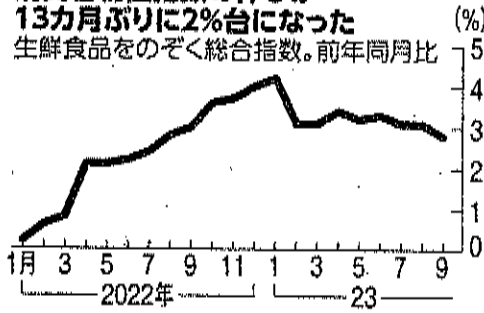
13カ月ぶりに3%割る

9月の消費者物価指数(2020年=100)

は、値動きの大きい生鮮食品をのぞく総合指数が105・7となり、前年同月より2・8%上がった。政府の補助金の効果で、電気・ガス代が大きく下がり、13カ月ぶりに3%を割った。ただ、補助金がなければ3・8%上昇していたという。

▼経済面―砂糖が高騰
総務省が20日発表した。前年同月に比べて電気代は24・6%、都市ガ

消費者物価指数の伸びが13カ月ぶりに2%台になった
生鮮食品をのぞく総合指数。前年同月比



ス代は17・5%下落。この月の料金に反映する液化天然ガス(LNG)や石炭などの燃料費が安くなったことや、政府の補

助金も効いた。だが今後は補助金が減るため、10月に支払う電気・ガス代は上がる見通し。

直近では中東情勢が緊迫化し、19日には原油価格の指標となる米国産WTI原油の先物価格が一時1バレル90ドル合に乗った。円も1ドル150円前後に。政府補助はあるが、ガソリン代は当面、高値に張り付きそうだ。食品の高値も続いている。タマゴやアイスクリーム、ハンバーガーをは

じめ、猛暑の影響でトマトや大根など生鮮食品も値上がりしている。また、トイレットペーパーや携帯電話の通信料も10%を超す上昇だった。生活実感に近いとされる生鮮食品を含めた総合指数は3・0%の上昇で14カ月連続で3%以上となった。

伊藤忠総研の中浜萌氏は「昨年秋季にあった値上げラッシュの反動で、物価の伸びは鈍化した。足元では原油高や円安になっっているが、輸入物価は下がっている。しばらくはエネルギーに対する政府の補助も続くため、生鮮食品をのぞく総合指数の伸び率は、当面は2・3%台で推移するだろう」とみる。(米谷陽一)